

目標達成計画

作成日：平成 24 年 2 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	前回の外部評価の結果をもとに法人理念を基に具体的なグループホーム独自の事業所理念をつくったが、文章が長くせつかくの理念の実践状況や評価がしにくい。	キャッチフレーズのように簡潔でわかりやすい内容で、職員や家族にも理念が伝わり、実践が図りやすくなる為の工夫をする。	キャッチフレーズのように簡潔でわかりやすい内容にするため、ホーム独自の理念の一部をピックアップし、「楽しみを共に見出す関係づくり」を次年度の目標にし、職員間でも理念の共有や意識付けを行う。(以降、年度毎にホーム独自理念の一部を抜き出し、目標を設定する。	10ヶ月
2	4	運営推進委員会の取り組みを委員会の構成員「家族の代表」以外の家族が会議の趣旨や内容を殆ど知らない。その為運営に関して家族が発言をする機会がない。又、現状としては、家族に推進会議の内容を公開していない。	入居者全員の家族に、運営推進委員会の趣旨や取り組みに注目し関心を持ってもらえるような対応法を構築する。	運営推進委員会の開催日を家族に知らせ、興味のある方に参加して頂く。又、家族に利用料の請求書を送る際には、会議録を要約した内容の書面を同封したり、ホーム内の掲示板に会議録を張り出して、面会時に閲覧出来るよう環境整備する。	10ヶ月
3	36/37	開設当初より利用者個々に担当職員を付けず職員全員で9人の対応を行ってきたが、職員個々の意見や方向性が定まらずに対応が遅くなった結果、主の気持ちに沿った対応が出来ない事がある。	利用者の窓口として、担当職員がひとりに固定すれば利用者一人ひとりの信頼関係を築き、思いや意見の確認もしやすく、ケアの実施についてももっとスムーズに出来る体勢を構築する。	平成24年度の取り組みとして、利用者毎の担当制を導入し、利用者の思いや意向を確認し、職員が代弁出来るような関係づくりに努める。又、記録物のまとめや、ケアプランのアセスメント・モニタリングにおいても積極的に介入出来るようにする。	10ヶ月
4	19/20	利用者は常に家族の事を思っているが、遠方であったり仕事により利用者にあまり関わる事が出来ない家族がある。又、職員に対して遠慮などをし、気軽に相談が出来ない事も予想され、日頃から家族とのアプローチの仕方に留意していく必要がある。	職員は利用者の家族に変わる事は出来ないが、家族の思いを代弁し、利用者の不安を和らげ要望を叶えられる様に支援を行う。	今後においても年中行事としている家族交流会の機会や、面会時等には家族との交流を密にし、可能な範囲で利用者の思いと家族の思いの双方を共有し、家族との信頼関係を築きやすい環境を整備する。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。